様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１、Ｚ－１９　（共通）

科学研究費助成事業　　研究成果報告書

令和　６ 年　６ 月 ２５ 日現在

機関番号：３５４０４
研究種目：基盤研究(C)（一般）
研究期間：2020～2023
課題番号：２０Ｋ０２９９９

研究課題名（和文）重度・重複障害児の能動的な学習を促進する学習内容と学習環境の設定に関する研究

研究課題名（英文）Research on learning content and learning environment settings that promote active learning for children with severe and multiple disabilities

研究代表者
樋口　和彦（HIGUCHI, Kazuhiko）

広島修道大学・人文学部・教授

研究者番号：８０７１０１１０

交付決定額（研究期間全体）：（直接経費）　　3,400,000円

研究成果の概要（和文）：樋口（2015, 2018）が作成した重度・重複障害児の学習成立の条件を活用し、重度・重複障害児が能動的に取りくめる学習内容の選定と活動の場の設定を検討した。分析には、樋口（2019）の「行動場面システムの評価」の区分を利用し、特に子どもの価値観を活かした環境設定の項目が効果的であった。大人の価値観を押しつけず、子どもに合わせた集団内のヒエラルキーを設定することで、子ども同士のかかわりや自発的な行動が増加した。運動障害が重度な場合は、他児童に視線を向ける上肢を他者の方へ動かすなどの行動も観察された。ケーススタディで得た知見から、「改訂版 行動セッティングシステム構造の評価」を作成した。

研究成果の学術的意義や社会的意義
重度・重複障害児は、自分が身につけている行動様式や自分の価値観に合った行動で、外界に働きかける。そのため、「教師が準備した教材や活動」と「自分がすでに身につけている行動様式や自分の価値観」とが合致しないと、活動に参加しない。これらに対し本研究の成果である「改訂版 行動場面システムの評価」は、授業を立案する際の有益な参考資料となる。これを利用し「学習内容の選定」と「活動の場の設定」をすると、活動場面の設定が容易になり、能動的な活動を引き出すことができる。

研究成果の概要（英文）：We investigated the selection of learning content and setting of activity spaces for children with severe and multiple disabilities to actively participate in.Using behavioral assessment (Higuchi, 2021). Setting up an environment that reflected children's values was effective. By setting up a hierarchy that was tailored to each individual, children's interactions with each other and spontaneous behavior increased.Based on the findings from the case study, we created the "Revised behavioral assessment."

研究分野：4204

キーワード：生態学的視点　能動性　学習内容　活動の場の設定

※科研費による研究は、研究者の自覚と責任において実施するものです。そのため、研究の実施や研究成果の公表等については、国の要請等に基づくものではなく、その研究成果に関する見解や責任は、研究者個人に帰属します。

様　式　Ｃ－１９、Ｆ－１９－１（共通）

１．研究開始当初の背景

研究代表者は、重度・重複障害児の学習に影響する要素として、①対人関係の成立、②能動的に取りくめる学習内容の選定、③障害の特性に配慮した活動の場の設定の 3 つの視点を示した（樋口，2015，2018）。

これら 3 つの視点についての先行研究を概観すると、「①対人関係の成立」については、共同注意（徳永，2003；菅・樋口，2017）、共創コミュニケーション（土谷，2016）、ネゴシエーション（土谷・菅井，2000）など非常に多くの研究が存在する一方、「②能動的に取り組む学習内容の選定」と「③障害の特性に配慮した活動の場の設定」に関する研究は少なかった。①に関する研究が進み、重度・重複障害児の対人関係を成立させる方法が明らかになると、彼らの学習をどうするかが次の課題となるがその方法が示されていなかった。

２．研究の目的

樋口（2015，2018）が作成した重度・重複障害児の学習成立の条件（①対人関係の成立、②能動的に取りくめる学習内容の選定、③障害の特性に配慮した活動の場の設定）を活用し、重度・重複障害児の能動的な学習を促進する「学習内容の選定方法」と「学習環境の設定方法」を示すことである。

３．研究の方法

(1) 授業の検討を通しての「改訂版 構造の評価の項目」の再選定の検討を行った。
(2)「改訂版 行動場面のシステム構造の評価」を基に研究協力者が在籍する機関の他の指導者に使用させ改善を行った。

４．研究成果

樋口（2015，2018）が作成した重度・重複障害児の学習成立の条件を活用し、重度・重複障害児が能動的に取りくめる学習内容の選定と活動の場の設定を検討した。分析には、樋口（2019）の「行動場面システムの評価」の区分を利用し、特に子どもの価値観を活かした環境設定の項目が効果的であった。大人の価値観を押しつけず、子どもに合わせた集団内のヒエラルキーを設定することで、子ども同士のかかわりや自発的な行動が増加した。運動障害が重度な場合は、他児童に視線を向ける上肢を他者の方へ動かすなどの行動も観察された。ケーススタディで得た知見から、「改訂版 行動セッティングシステム構造の評価（以下、システム構造の評価とする）」を作成した。

次に作成した評価表等を記述する。

(1) 改訂版 行動セッティングシステム構造の評価

システム構造の評価を表 1 に示す。

表 1　行動セッティングのシステム構造の評価（改訂版）

	評価区分	内容例
①	活動の目的・役割	目的・役割【教育目標に準じている、特定の能力の伸長、知識の習得、構成員間の関係づくり、子どもの好む活動、季節に合わせた活動、行事等】
②	構成員（子どもと教師）の行動セッティングでの役割	構成員の役割 【全体の進行、場面における重要な役割、活動を支える支援的役割（裏方）等】
③	構成員の役割の階層	階層構造（ヒエラルキー）における位置 【リーダー、特定の役割、参加者、視聴者等】
④	わかりやすい活動空間の設定、設置されている教材や補助具等の形態・目的・配置・構成員の特性	活動空間、環境設定 【慣れている力を発揮しやすい場所、好きな場所、苦手な場所、活動目的に則した場所、使いやすい教具・道具、補助具の準備等、特定の他者、親しい関係、無関心な関係】
⑤	活動における構成員（子どもと教師）の価値観のすりあわせ	指導者の価値観 【教育目標の達成、教師の意図する学習、学校や公的な目標達成】 子どもの価値観 【興味関心、好む活動、やりがいがある活動、文脈に合った活動、必然性がある活動】

この評価は、子どもだけに対する評価ではなく、環境を総合的に評価するものである。

重度・重複障害児の意向を十分理解し、能動的に活動しようとする学習内容や環境設定を準備するため、㋐子どもの評価（子ども同士の関係性も含む）、㋑教師の評価（かかわり方、コミュニケーション方法等）、㋒学習内容の評価、㋓環境設定に対する評価（物理的環境と重度・重複

障害児の意向を活かす活動の設定等）の四者全てを評価の対象としている。
　システム構造の評価の作成過程で、評価区分と内容例を整理するために地域療育センターや特別支援学校でのケーススタディを行った。その回数は延べ 20 回にも上った。結果、各区分の内容を精査できた。ここでは、下位項目の検討内容として①活動の目的･役割について報告する。

（2）改訂版 行動セッティングシステム構造の評価の①活動の目的・役割について

　システム構造の評価の細分化した評価表（表 2　活動の目的・役割を検討する際の活動設定）を作成した。

表２　活動の目的・役割を検討する際の活動設定

	評価の対象	評価の視点	備　考
㋐	子ども	能動性、学習意欲、表出（表情、上肢の動き、身体の動き）	行動観察から子どもの内面の心の動きを理解する
㋑	先生	好きなかかわり手（先生・子ども）、子どもの支援者、子どもの理解・行動の読み取り、かかわり方（コミュニケーション・やりとりの方法）、得意な活動（先生の）を活かす	先生が子どもにとってどのような相手か？ 子どもを理解しているか？
㋒	学習内容	興味関心、好きな活動	地域療育センターや学校の標準的な活動でなくてもよい
㋓	環境設定	共に活動をする人、好きな役割、子どもが力を発揮しやすい教具、道具、補助具の状況	

　ここでは、①活動の目的・役割についてのみ解説したい。
　「①活動の目的・役割」の評価区分は、活動設定理由、教育活動の中での活動の役割を示している。学校では、学習指導要領に基づき、教育目標や能力の伸長を目指して考えられてきたが、重度・重複障害児の学習を行う際、健常児の学習と同様に初めから指導者側の意図（教育目標）に基づいた学習を行うとうまくいかない場合が多いため、重度・重複障害児の意向も重視しながら設定する必要があった。
　ケーススタディの中で、地域療育センターの事例では子どもに合わせて自由に活動設定することができたため、子どもの変容が早期に現れ表 2 に反映することができた。しかし、学校では学校の指導計画や学習指導要領に合わせて活動設定するケースが多く、子どもの能動性を引き出す際に、柔軟に対応できないこともあり、学校で適用するための学校文化の問題も示された。

５．主な発表論文等

〔学会発表〕計 8 件

（1）樋口和彦・渡邉正人（2020）　障害が重い子どもの学習を支える理論（1）―バーカーの行動場面理論の重度・重複障害児の学習への適用―．日本特殊教育学会第 58 回大会発表論文集．日本特殊教育学会.
（2）渡邉正人・樋口和彦（2020）障害が重い子どもの学習を支える理論（2）―感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習への取り組み―．日本特殊教育学会第 58 回大会発表論文集．日本特殊教育学会.
（3）樋口和彦・渡邉正人（2022）障害が重い子どもの学習を支える理論（3）　―行動セッティングの視点からの重度・重複障害児の学習活動の改善―．日本特殊教育学会第 60 回大会発表論文集．日本特殊教育学会.
（4）渡邉正人・樋口和彦（2022）障害が重い子どもの学習を支える理論（4）　―感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習活動の取り組み―．日本特殊教育学会第 60 回大会発表論文集．日本特殊教育学会.
（5）樋口和彦、平田香奈子、石川ゆず、河原周作、伊藤心、渡邉正人、藤川志つ子、三木由美子（2023）重度・重複障害児の学習とは？（8）―能動的な学習を促進する学習内容の選定と学習環境の設定(Behavior Setting)―.日本特殊教育学会第 61 回大会発表論文集.日本特殊教育学会.
（6）樋口和彦・渡邉正人・藤川志つ子（2023）障害が重い子どもの学習を支える理論（5）―行動セッティングの視点からの重度・重複障害児の学習活動の改善②―.日本特殊教育学会第 61 回大会発表論文集.日本特殊教育学会.
（7）渡邉　正人・樋口和彦・藤川志つ子（2023）障害が重い子どもの学習を支える理論（6）　感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習活動の取り組み.日本特殊教育学会第 61 回大会発表論文集.日本特殊教育学会.
（8）藤川志つ子・樋口和彦・渡邉正人（2023）障害が重い子どもの学習を支える理論（７）　―重度・重複障害児の主体的な学びを育む取り組みについての一考察―.日本特殊教育学会第 61 回大会発表論文集．日本特殊教育学会.

〔図書〕計２件

樋口和彦（編著）・菅　智津子・島村晶子・堀内美紀・児山隆史(2021) 重度・重複障害児の学習とは？―障害が重い子どもが主体的・対話的で深い学びを行うための基礎―. ジアース教育新社.

樋口和彦(編著)・渡邉正人・藤川志つ子・中尾健太郎・平田香奈子・三木由美子・清田正史・山下真由・池田知史他 (2024) 重度・重複障害児の学習とは？Vol.2 ―障害が重い子どもの能動的な学習を促進する学習内容と学習環境の設定―. ジアース教育新社.

５．主な発表論文等

〔雑誌論文〕　計0件

〔学会発表〕　計9件（うち招待講演　0件／うち国際学会　0件）

１．発表者名 樋口和彦・渡邉正人
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（1）―バーカーの行動場面理論の重度・重複障害児の学習への適用―
３．学会等名 日本特殊教育学会　第58回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 渡邉正人・樋口和彦
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（2）―感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習への取り組み―
３．学会等名 日本特殊教育学会　第60回大会
４．発表年 2020年

１．発表者名 樋口和彦・平田香奈子・石川ゆず・河原周作・伊藤　心・渡邉正人・藤川志つ子・三木由美子
２．発表標題 重度・重複障害児の学習とは？（7）　―能動的な学習を促進する学習内容の選定と学習環境の設定―
３．学会等名 日本特殊教育学会　第60回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 樋口和彦・渡邉正人
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（3）　―行動セッティ ングの視点からの重度・重複障害児の学習活動の改善―
３．学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 渡邉正人・樋口和彦
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（4）　―感覚と運動の 高次化理論による重度・重複障害児の学習活動の取り組み―
３．学会等名 日本特殊教育学会第59回大会
４．発表年 2022年

１．発表者名 樋口和彦、平田香奈子、石川ゆず、河原周作、伊藤心、渡邉正人、藤川志つ子、三木由美子
２．発表標題 重度・重複障害児の学習とは？（8）―能動的な学習を促進する学習内容の選定と学習環境の設定(Behavior Setting)―
３．学会等名 日本特殊教育学会第61回 大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 樋口和彦・渡邉正人・藤川志つ子
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（5）―行動セッティングの視点からの重度・重複障害児の学習活動の改善②―
３．学会等名 日本特殊教育学会第61回 大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 渡邉　正人・樋口和彦・藤川志つ子
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（6）　感覚と運動の高次化理論による重度・重複障害児の学習活動の取り組み
３．学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
４．発表年 2023年

１．発表者名 藤川志つ子・樋口和彦・渡邉正人
２．発表標題 障害が重い子どもの学習を支える理論（７） ―重度・重複障害児の主体的な学びを育む取り組みについての一考察―
３．学会等名 日本特殊教育学会第61回大会
４．発表年 2024年

〔図書〕　計2件

１．著者名 樋口和彦（編著）・菅　智津子・島村晶子・堀内美紀・児山隆史	４．発行年 2021年
２．出版社 ジアース教育新社	５．総ページ数 220
３．書名 重度・重複障害児の学習とは？―障害が重い子どもが主体的・対話的で深い学びを行うための基礎―	

１．著者名 樋口和彦(編著)，渡邉正人・藤川志つ子・中尾健太郎・平田香奈子・三木由美子・清田正史・山下真由・池田知史他	４．発行年 2024年
２．出版社 ジアース教育新社	５．総ページ数 176
３．書名 重度・重複障害児の学習とは？Vol.2 ―障害が重い子どもの能動的な学習を促進する学習内容と学習環境の設定―	

〔産業財産権〕

〔その他〕

－

６．研究組織

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	渡邉　正人 (WATANABE Mashato) (60907773)	鳥取大学・地域学部・准教授 (15101)	

６．研究組織（つづき）

	氏名 （ローマ字氏名） （研究者番号）	所属研究機関・部局・職 （機関番号）	備考
研究分担者	藤川　志つ子 (FUJIKAWA Shitsuko) (50637874)	淑徳大学短期大学部・その他部局等・准教授 (42627)	
研究分担者	平田　香奈子 (HIRATA Kanako) (00435356)	広島修道大学・人文学部・教授 (35404)	
研究分担者	三木　由美子 (MIKI Yumiko) (90726217)	広島修道大学・人文学部・准教授 (35404)	

７．科研費を使用して開催した国際研究集会

〔国際研究集会〕　計0件

８．本研究に関連して実施した国際共同研究の実施状況

共同研究相手国	相手方研究機関